いきいき学びのプラン

HAPPY LEARNING KISHIWADA
新しい風、生涯学習。

【生涯学習計画】市民だより／82号
（令和6年9月1日発行）
《発行》岸和田市・
岸和田市教育委員会
《編集》岸和田市教育委員会
生涯学習部　生涯学習課
〒596-0072
岸和田市堺町1-1
（市立公民館・中央地区公民館内）
電　話：072-423-9615～6
ＦＡＸ：072-423-3011
メール：
syogaig@city.kishiwada.osaka.jp

ひとが咲く。

岸和田市では、若い世代の人たちが習い事では触れる機会の少ない「合唱」「吹奏楽」「演劇」の各分野でプロの指導を得ながら体験できる事業を実施しています。今回の「ひとが咲く。」は、その中の「演劇」活動を行うマドカドラマスクールの皆さんをご紹介します。

マドカドラマスクール

マドカホール開館40周年記念事業・マドカドラマスクール設立25周年記念公演「本日は秋晴れなり-夢多き君たちへ-」は、スクール生、体験生、卒業生、総勢38名が出演し、6月2日の2回の公演で900名を超える観客を動員し、大盛況でした

【マドカドラマスクールについて】

平成2年に本市で初めて開催された「子どもえんげき祭」に参加するため、当時、岸和田おやこ劇場の会員である子どもたちが中心となり劇団を立ち上げました。その後、平成11年に「マドカドラマスクール」として、改めて結成され、今年設立25周年を迎えました。

演技の指導は、各所で演劇の企画プロデュースなどを手がける企画想像集団「SPACEとりっくすたあ」から木村玩先生と大谷羊子先生を講師に迎え、現在、小学4年生から20歳までの23名が稽古に励んでいます。今回は、記念公演本番前の熱気あふれる稽古場にお邪魔して、当公演の脚本、そして演出もされる大谷先生にお話を伺いました。

Q マドカドラマスクールの魅力は？

前身のおやこ劇場のころからの、『色んな世代の子どもたちが一緒に勉強して育っていく』というコンセプトを受けついでいます。ここには、プロの舞台に立てるくらい演技上手な子も、この舞台が初めてという子もいます。

もちろん演技を上達させたいと思っています。でも、それより、小さい子どもたちがおとなさんお姉さんを見て憧れ、ともに育ち、自分が先輩たちにしてもらったことをまた後輩に教える、そんな循環が生まれる場となるように意識しています。演劇を通して、異年齢の子どもたちが同じ目標にむかっていく、これこそがマドカドラマスクールの魅力だと思います。

Q 子どもたちと接する時に心がけていることは？

私は、子どもたちに嘘をつきません。知ったふりをしてごまかさない。指導する側であるけれど、子どもたちのことを『一緒に芝居を創り上げる仲間』だと思っています。

最初は、演技をやって見せ、形をなぞるところから始めますが、最終的には自分で考えについて深く考えないと観客の心に響く演技はできません。うまくいかなくて何回も作り直しをさせることもありますが、稽古を乗り越えた本番の演技がめちゃくちゃいいです。毎回、驚かされます。

稽古中、先生方から子どもたちに演技を厳しく求める場面もありました。演技を妥協なく突き詰めるのは、「必ずできる」と子どもたちを信じる思いがあるからこそ。年齢や立場の枠を越えた信頼関係を感じました。

迫真の演技で観客を魅了

【スクール生の想い】

当公演で中心人物を演じたお二人にお話を伺いました。

稽古ではスクール生をまとめ引っ張ってきた奥村ややさん（大学一年生）は、

「今回の公演は、自分が経験したことのない第二次世界大戦が背景の脚本だったので、亡くなった、また、戦争を経験した方に失礼のないようにこの時代のことを勉強しました。みんなで話し合うと芝居がどんどん良くなっていく、そんな時に楽しいと感じます。そして、やっぱり本番の一体感は最高です。」

また、振付も担当した今広美月さん（大学二年生）は、

「どう表現したら観てくださる方に想いを伝えることができるかをすごく考えて振り付けをしました。私は、演劇に勇気づけられた経験があるので、将来は、自分も演劇を通して、人に元気を届けることができるようなお仕事がしたいです。」

スクール生は「演じる」だけではありません。例えば、当公演で使用した小道具の一部はスクール生が作りました。客席からは見えないような細かなところまで道具を作りこみ、自らが演じる役に想いを寄せること、そこで感じたことも役作りに活かされます。

【様々な経験を胸に】

半年前から準備を始め、本番まで2ヶ月を切った頃から毎週末のほとんどを稽古に費やします。試行錯誤しながら全員で積み上げた日々を経て迎えた本番。歌やダンスもあり、2時間を超える公演を2回やり切った子どもたちの笑顔は清々しく、まぶしく、その姿はたくましくもありました。

学校とは違うコミュニティでたくさんの仲間と出会い、目標に向かうこと、やり遂げる達成感は、子どもたちにとって何事にも代えがたいものであることは言うまでもありません。

次の公演は、岸和田市文化祭。スクール生が脚本演出に挑戦する演目もあるそうです。団結した子どもたちの「次の舞台」が楽しみですね。

プロの照明、音響、衣装、舞台監督が舞台づくりをサポート。子どもたちの演技がより輝きます

「やってみたい！」と思ったあなたへ

幅広い年齢層の子どもたちが、プロの演出家のもと演劇を基礎から学んでいます
見学・無料体験レッスンをご希望の方は下記まで（対象：小学3年生から20歳）
【お問い合わせ】マドカホール（荒木町１丁目）☎ 072-443-3800　9時から17時
月曜日休館　メールアドレス：madokadrama@gmail.com

次回公演「岸和田市文化祭」のお知らせ

日時：10月27日（日）1回目14時～　2回目17時30分～
場所：マドカホール　リハーサル室１　入場無料　予約優先

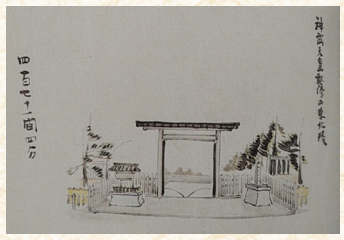
☆お問い合わせは左記メール、お電話まで☆

岸和田が誇る学術文化賞
「濱田青陵賞」

濱田耕作氏（はまだこうさく）と濱田青陵賞（はまだせいりょうしょう）

「日本考古学の父」と呼ばれる濱田耕作氏

濱田耕作氏
（雅号：青陵）
（1881年～1938年）



「神武天皇陵」
歴代天皇御陵図誌より

※濱田氏が15歳のときに巡拝してスケッチしたものです

江戸時代に岸和田藩岡部家に仕えていた濱田家の長男として生まれ、小学生の頃から土器や石の矢じり（矢の先端の尖った部分）を集めたり、大阪府立第一尋常中学校（現：北野高校）時代には、河内や奈良にある古墳や天皇陵などの御陵を巡るなど、日本の古代文化に強い関心を持っていました。

日本のみならず西洋の歴史や文化にも興味を持っていた濱田氏は東京帝国大学（現：東京大学）西洋史学科に入学し、ギリシャ・ローマ美術史を含む幅広い西洋古典学を学びます。その後、京都帝国大学（現：京都大学）講師を嘱託され、３年間ヨーロッパに留学し、イギリスの考古学の方法論などを採り入れ、大正５年に日本初の「考古学教室」を同大学で開設しました。

また、日本をはじめアジア各地で発掘調査を行い、整理・研究・報告・遺物の保存といった現在では当たり前となっている考古学の基本を体系的に確立し、膨大な報告書を刊行しました。

「考古学は過去人類の物質的遺物(に拠り人類の過去)を研究する学」

これは濱田氏が、大正11年に著書「通論考古學」の中で書いた考古学の定義で、今もなお継承されています。
考古学とは過去の遺跡や遺物などを通して人類がどのような過去を歩んできたのかを追及し研究を進めていくものです。
そのためには歴史、地理、美術史、建築史、民俗・民族、言語などの人文科学と、地質、古生物学などの自然科学の手法を採り入れることが必要で、関連分野の研究者との連携をはじめに提唱し、実践したのが濱田氏で、日本の考古学の基礎を築き上げたことから「日本考古学の父」と呼ばれています。

また、考古学以外にも精巧な模写、俳画に似た洒落たスケッチや「南欧游記（なんおうゆうき）」などの紀行文、「百済観音」などの絶妙な味わいの随筆を執筆し、多才であったことがうかがえます。

「退官をすれば、故郷の岸和田の小学生に考古学を教えるのだ」と言っていたという濱田氏ですが、京都帝国大学総長に選出されて間もなく病気のため57歳で亡くなりました。

濱田氏から指導を受けた後進の多くが、同氏の遺志を引き継ぎ、その後の考古学の各方面のリーダーとなっていきました。

以上のように、岸和田市にゆかりが深く、日本考古学の先駆者として偉大な功績を残し、多くの後進を育成した濱田氏の没後50年にあたる昭和63年に「岸和田市文化賞条例」に基づき、岸和田市と朝日新聞社が創設したのが「濱田青陵賞」です。

濱田氏の業績を称えるとともに、日本考古学の振興に寄与することを目的とし、業績のあった中堅の有能な研究者や団体を広く選考し、表彰するもので、今年36回目を迎えます。

当初この賞の意図は、関連する学界以外では理解されにくい側面がありましたが、受賞者が着実に成果を上げ活躍することで、回を重ねるごとに広く知られるようになり、今では「考古学の芥川賞」と言われています。

受賞者に贈られる盾

濱田耕作氏や濱田青陵賞について、もっと知りたいと思ったなら

岸和田市立図書館で、関連本を読むことができます（一部貸出不可）。
その中でも「考古学入門」は、濱田氏が子ども向けに書いたと言われ、
まるで博物館を巡っているような気分になれる本で、おすすめです。
また、市発行の図録（右記参照）もあります。

岸和田城で開催した展覧会図録「濱田青陵～人と芸術～」は郷土文化課と岸和田城で1部1,000円で販売しています

歴代の受賞者の中から一部の方をご紹介します

（写真は受賞当時のものです）

歴代受賞者一覧はこちら➡

第１回（昭和63年）　東野 治之（とうの はるゆき）氏

木簡・文字

授賞理由「アジア的視点にたつ古代日本文化の研究」

古代文献史学の研究者である東野氏は、特に遺跡から出土する木簡の研究を行い、木簡から中国の古典にある文言を読み取り、中国の文化がいかにして古代の日本に採り入れられ、普及していったかを解明しました。

また、出土した墓誌や有銘刀剣（※）などのあらゆる遺物・遺品に書かれている文字から、遺物が持っている情報を分析するという手法を編み出しました。例えば、法隆寺への献納宝物である「香木」の刻銘と焼印が中央アジア系の文字であることを解明し、中央アジアから文化がどのように日本に伝わってきたのかなど、文字から人の動きや思想、時代背景を読み取り、わからないことの多い古代日本文化の実態の解明をすすめました。

日本古代史解明への長年に亘る貢献から紫綬褒章を受章されています。また、第26回受賞者の市大樹（いちひろき）氏の「恩師」であり、第33回受賞者の河上麻由子（かわかみまゆこ）氏から「憧れの存在」と言わしめるほど、古代の「文字」研究のパイオニアとして知られています。

※有銘刀剣･･･製作者の名前や製作地、製作年代などが刻印された刀剣

第23回（平成22年）　若狭 徹（わかさ とおる）氏

古墳・水利

授賞理由「古墳時代地域首長とその支配領域の形成過程に関する実証的研究」

若狭氏は受賞当時、群馬県高崎市教育委員会文化財保護課の文化財担当者でした。高崎市付近には、イタリアのポンペイ遺跡のように古墳時代の集落、首長居館、田畑などが火山噴火物によりそのまま埋没したため、極めて良好な状態で保存されていました。若狭氏はそれらの遺跡群の調査をすすめ、高崎市井野川水系の研究では、地方の支配者の権力構造を解明する手掛かりを発見します。それはいつの時代でも重要な「水」を支配することで、さらなる権力を得、集落や農耕が発展し、そこに首長が居館を構え、その死後は古墳が造られたという権力の発展過程を示すものでした。実はこの流れは中央である大和政権の発展過程と相似形であり、日本列島の古墳時代の地域社会の発展過程の解明に大きく寄与することになりました。

若狭氏の受賞は、全国の自治体職員にとって「行政の研究者でも認められる」という前例になり大きな励みとなりました。

第25回（平成24年）　小畑 弘己（おばた ひろき）氏

土器・種、虫

授賞理由「東北アジアにおける穀物栽培化過程の革新的研究」

元々は極東アジアの土器・石器の研究者であった小畑氏は、その土器を解析する過程で植物の種が土器に「圧痕」として残ることに気付いたのです。土器に残る植物痕跡に、シリコン樹脂を流し込み型取りし、はがした樹脂を調べる方法で、植物の種や実の復元的「実体」を収集・分析することに成功し、そこから当時栽培されていた植物やその栽培過程を明らかにしました。

例えば、縄文時代に既にダイズが栽培されていたことを発見し、そのダイズがどのような栽培過程を経ながら、どのように変化していったのかを研究しました。また、縄文土器に、貯蔵穀物に付く害虫であるコクゾウムシの痕跡を見出し“世界最古”のコクゾウムシを発見、縄文時代に既に食物が貯蔵されていたことを実証しました。

最近では、縄文土器に残る卵鞘（らんしょう）（卵が入った固い殻）圧痕からゴキブリの種（しゅ）を分類し、約５千年前の縄文時代中期にすでに現在の日本におけるゴキブリの種分布（棲み分け）が成立していたとの研究成果を公表し注目されました。

第36回（令和６年）濱田青陵賞は森先 一貴（もりさき かずき）氏！

授賞理由「日本旧石器時代の体系的研究とその社会的・国際的発信」

旧石器時代というと何を思い浮かべるでしょうか。「はじめ人間ギャートルズ？」「マンガ肉？」いずれにせよ毛皮をまとい、石の槍（やり）で動物を狩るイメージでしょう。そんな限られた情報を研究して、今以上に何がわかるのか、というのが一般的な理解でしょうか。

森先氏の研究によると、旧石器時代の「石ころ（槍先やナイフ型石器など）」の破片を観察すれば、日本列島はその地形や気候の変化により、旧石器時代にはすでに「地域文化」や「地域性」があったというのです。

多様な自然環境に適応するために旧石器時代に人が編み出した、生存戦略が垣間見えるのです。

授賞式と記念シンポジウムが開催されます

日時：９月22日（日・祝）午後１時から
場所：岸和田市立文化会館(マドカホール)

申込不要です
ぜひお越しください

記念シンポジウム『日本人はどこから来たか』

パネリスト
- 森先　一貴　東京大学大学院人文社会系研究科准教授
- 片桐　千亜紀　沖縄県教育庁文化財保護課
- 河野　礼子　慶應義塾大学文学部教授

コメンテーター
- 小林　達雄　國學院大學名誉教授

司会
- 中村　俊介　朝日新聞社編集委員

（順不同・敬称略）

森先　一貴氏

※授賞式･記念シンポジウムについては本紙14ページをご覧ください

いろんな景色が見えてくる
岸和田ボランティアガイド

岸和田ボランティアガイドの紹介

「岸和田の歴史や文化を皆様に知ってほしい！」との思いで、平成 13 年 6 月に 8 名で発足し、令和 6 年 4 月現在、33 名の会員で活動しています。

令和 5 年までの 23 年間で約 8 万 6 千名ものお客様を案内しました。

毎月 1 回、外部講師や会員同士による研修を実施し、知識のレベルアップをはかり、互いに研鑽を積んでいます。また、秋には市外に訪れて現地ボランティアガイドさんの案内にふれ、ガイドとしての資質を高めています。

おもてなしの心を大切に岸和田市内の名所・旧跡を案内しています。ぜひご活用ください。

一緒に活動しませんか

養成講座を開催します

ボランティアガイドになるためには養成講座の受講が必要です。岸和田の歴史や文化財について学んだ後、岸和田城などでの実地研修もあります。10月から「岸和田ボランティアガイド第10期養成講座」が始まります。募集については本紙 14 ページをご覧ください。

予約案内

「岸和田城と城下町」「久米田寺周辺」といったコースがあります。日時やコース内容については相談に応じます。

- 10 名様ごとに 1 名のガイドが案内します（1 名様からでも予約可能です）
- ガイド 1 名につき 1,000 円の運営協力金が必要です
- 予約方法は、申込用紙に必要事項を記入し、希望日の2週間前までに FAX またはメールにてお申し込みください

FAX：072-436-0915
メール：kishiwadavg@gmail.com

【お問い合わせ】
岸和田市観光振興協会（だんじり会館内）
電話: 072-436-0914

姉妹都市であるサウスサンフランシスコ市から来た学生を案内

その他

「きしわだ地車小屋めぐりウォーク」など行政機関などが主催するイベントの協力も行っています。

企画案内

毎年春と秋に「いきいきウォーク」を開催しています。春は日本書紀にも登場する「捕鳥部萬（ととりべのよろず）」の墓などを訪問しました。次回は秋に開催予定です。詳細は広報きしわだ11月号に掲載します。ご参加お待ちしております。

常駐案内

土曜日、日曜日、祝日に岸和田城とだんじり会館で実施しています。案内は無料です。

※予約案内・常駐案内とも、施設の入場料は別途必要です

だんじり会館での常駐案内

ボランティアガイドさんにお話を伺いました

左から会長の木村さん、お話を伺ったガイド歴2年目の勘六野さん（勘）と同3年目の藤平さん（藤）

養成講座を受講したきっかけは

（勘）仕事を退職して何かすることはないかと探していたところ、ボランティアガイドの養成講座があるのを知り参加しました。

（藤）私は中国語の講師をしています。岸和田を案内することで、外国のお客様にも日本の文化や歴史に触れてもらいたい、理解してもらう方法を学びたいと思い養成講座を受講しました。

ガイドになって変わったことは

（勘）道端の道標や石碑などにも気が付くようになりました。「いきいきウォーク」で取り上げた捕鳥部萬の道標を貝塚市で見つけ、なぜここにあるのかを調べたりしました。色々なことを知りたいという思いが湧いてくるのを感じています。

養成講座を受講してすぐに案内をするのですか

（藤）はじめは先輩ガイドに同行して、先輩の案内をしている様子を見たり聞いたりして勉強しました。その後、1人での案内は不安もありましたが、養成講座で学んだことや先輩から教えていただいたことを基に対応することができました。

ガイドをしていて良かったことは

（藤）「知らなかったことを知ることができた」「ガイドをお願いして良かった」「また来ます」とお客様に言ってもらえた時です。

（勘）先輩ガイドをはじめ新しい仲間ができたり、お客様を案内することで、人と人とのつながりが広がっていくことです。

皆様に伝えたいことは

（藤）出会ったガイドで旅行先の印象が変わると感じています。私たちガイドが岸和田の『顔』という思いで案内をしています。

（勘）市民の皆様にも史跡などを案内することで、改めて岸和田の魅力を伝えたいと思っています。『岸和田ファン』をもっと増やしていきたいです。知れば知るほどおもしろい！私たちと一緒に新しい岸和田を再発見してみませんか。

☆岸和田市立公民館イラストコンテストを開催しました☆

「子どもたちに公民館をもっと知ってもらいたい！」そんな思いから、4歳から小学6年生を対象に「公民館」をイメージしたイラストのコンテストを実施しました。

応募総数 157 点！たくさんのご応募ありがとうございました。

最優秀賞
大西 茜 さん

ピーチ味です

最優秀賞は、オリジナルキャンディ＆令和６年度岸和田市立公民館のインスタグラムのアイコンに採用！キャンディは、岸和田市立公民館で小学生以下の方にお配りしています

優秀賞
潮津 菜々海 さん

優秀賞は、令和６年度岸和田市立公民館まつり（10月）のプログラム表紙を飾ります！

応募作品はどれも力作ぞろい！
一部をご紹介します

中出 明里さん

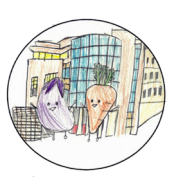
福井 美乃梨さん

出口 陽菜さん

堀野 月菜さん

菰池 にのかさん

井上 莉子さん


南 日向多さん

濱本 惺莉さん

最新の講座情報など市立公民館からのお知らせを随時更新しています。下記 QR コードからフォローお願いします

岸和田市立公民館
公式 Instagram